

ぎふかれん

No.70 2023年1月発行

発行 NPO 法人 岐阜県精神保健福祉会

☎500-8385 岐阜市下奈良 2-2-1 岐阜県福祉・農業会館 3階

TEL/FAX 058-271-8169 HP: <https://gifu-karen.jimdo.com/>



理事長あいさつ

理事長 服部 信子

明けましておめでとうございます。コロナ禍が続きますが、感染対策をして外に出かけ、元気をもらいましょう。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、講演会の延期・変更を防ぐため、会場とZOOMの両方のハイブリッド講演会を開催しました。8月の高山市の講演会、10月の養老町の講演会、2回実施いたしました。事務局が何回もテストを重ねましたが、不十分なところもあったかと思いますが、県外や遠方の方の参加もあり良かったと思います。2月の講演会も、ハイブリッド形式の予定です。是非、ご参加ください。

「家族による家族学習会」は、10月にたんぽぽの会主催（各務原市）で開催し、好評でした。12月、1月は岐阜市あけぼの会主催で実施します。精神疾患にかかると、当事者も家族も大変混乱し、孤立しがちです。同じ立場の家族と学習し話すことで、問題がはっきりし仲間が出来ます。今年もいろんな所で、開催したいと思います。ご協力をお願いします。

相談事業は、電話・面接・メールをしております。「ぎふかれん」の事務所に遊びに来て下さい。精神疾患の関連書籍もたくさんあります。相談員がいますので、予約の電話をして来て下さい。今年もよろしくお祈り申し上げます。

「家族による家族学習会」を実施して

たんぽぽの会 会長 井上 俊子

「家族による家族学習会」を実施するにあたって5回の開催場所の確保が可能なのか、参加者が集まるのか等不安がありました。各務原市社会福祉課の協力により会場が決まり、広報に掲載していただいたことで、3名の参加希望者がありホッとしました。

10代の娘さんが発病間もなくどうしたらいいのかと不安を抱える方、30代の息子さんの発病を周囲に知られたくないという思いで長年悩まれてきた方、母親が70代と高齢になり親亡き後の息子さんの行く末を心配している方、それぞれに課題を抱えた方達が、学習することにより何とか良い方向にしたいという思いで一歩踏み出し、参加されました。（参加者5名）

アドバイザーの方が遠方の静岡県より来られ、貴重なご意見を頂きました。

行政の方に参加してもらおうと良い。行政に家族の思いを理解してもらい、情報を得ることが出来、支援の輪も広がるのではないかと。今後、行政の方の参加を考えて行く必要があると思いました。

※岐阜家連事務局の方のお力添えをいただいたおかげで無事終了したことに感謝申し上げます。



この機関紙は、岐阜県共同募金会のご寄付で作成いたしました

『第40回知ってもらいたい心の病』講演会

日時：令和4年8月28日（日）13：30～16：00

場所：高山市民文化会館 講堂 3階（岐阜県高山市昭和町1-188-1）

基調講演：「発達障がいと精神疾患」

講師：藤江昌智先生（飛騨市こどものこころクリニック院長）

益田大輔先生（須田病院精神科医）

意見発表：「現場サイドから見た発達障がい」

発表者：伊藤知子氏（飛騨圏域発達障害支援センターそらいろ公認心理士）

：野中桃子氏（自立訓練事業所 ひるねこ代表理事）

コーディネータ：野尻牧氏（自立訓練事業所 ひるねこサービス管理責任者）

参加者134名（会場参加81名・オンライン参加53名）

「ぎふかれん」にとって初の会場とオンライン配信を同時に行う講演会となりました。何度もリハーサルを重ね、当日に臨みました。講演会前日、講師の藤江先生がコロナの濃厚接触者になられたため、家から出られないとの連絡を受け、会場と先生のお宅を結んでオンライン配信するリハーサルを行いました。迎えた当日、朝9時に先生の奥様から先生ご自身が、コロナに感染されたとのこと連絡をいただきました。ご家族も感染される中、先生に講演していただくことを断念し、素人の事務局の人間が、先生のご用意された30ページ以上にのぼる資料を読むリハーサルをしておりました。当日の会場参加者の中に、偶然にも須田病院の益田大輔医師がいらっしゃいました。益田先生の有り難いお申し出で、初見の資料にも関わらず見事に代役を果たして頂きました。益田先生には、感謝しても感謝しきれません。本当にその節はありがとうございました。「発達障がいと精神疾患」というテーマは、とても関心も高く、オンライン参加者の中には他県からの参加者もいらっしゃいました。高山市の地元で、支援活動をいらっしゃる「飛騨圏域発達障害支援センターそらいろ」の伊藤知子さん、「自立訓練事業所ひるねこ」より野中桃子さん、野尻牧さんをお招きして、「現場サイドから見た発達障がい」というテーマで話をいただきました。高山市に、支援機関があることを初めて知ったという方も多くありました。「広報活動が課題ですね！」という声が会場から出ていました。機会があれば今度こそ、藤江先生のご講演を実現させたいと思う関係者たちでした。奇跡の講演会でした。



『第41回知ってもらいたい心の病』講演会

日時：令和4年10月10日（祝・月）13：30～16：00

場所：養老町民会館 大ホール（岐阜県養老郡養老町石畑 483-2）

共催：岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会

演題：「今、私たちにできること～人と人とのつながりを回復するために～」

講師：高木 総平 教授（中部学院大学人間福祉学部教授

・臨床心理士・岐阜いのちの電話副理事長）

参加者 100 名（会場参加 79 名・オンライン参加 21 名）

自死について我々人間はどんなことを思い浮かべるでしょうか。年間2万人以上が自死しています。年代によって理由はまちまちですが、女性より男性の方が、また無職の人の割合が多いです。働き盛りのひとは経済的な原因、全般的には健康問題で悩んでいる人が多いという統計結果でした。近所とか会社・学校などとのコミュニケーション、つながりが希薄になったのか、少子化、スマホの影響があるのかもしれませんが。

昭和30年半ば、高度経済成長期に入り大都市に人も物も集中して欧米列強並みの経済大国になった日本。政府の方針で、私立の精神病院が日本中に建設され、日本はベッド数30万床の世界一の精神病院大国になりました。10年前位までは年間3万人以上が自死していました。今は2万1千人です。岐阜県は3百数十人です。悩む人はその何倍もいるかもしれません。

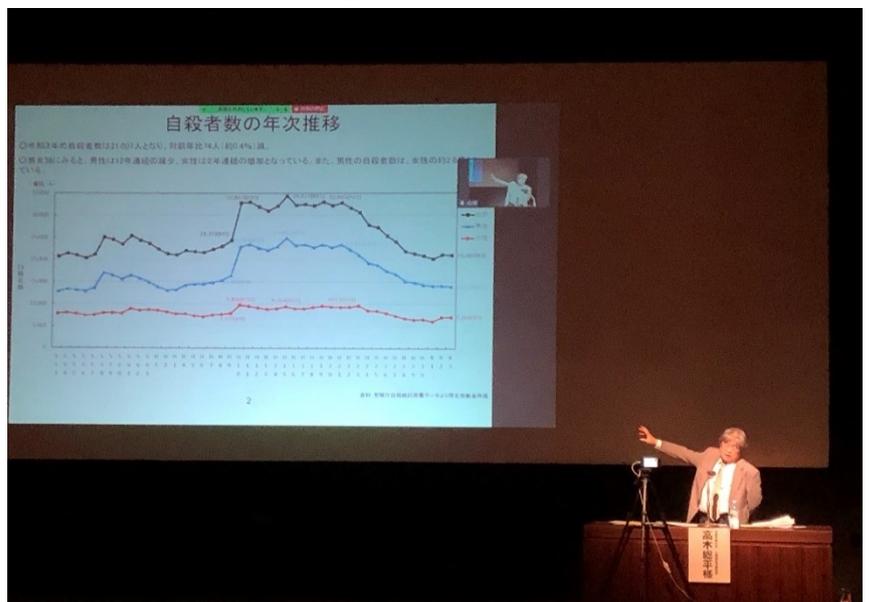
高木教授は、日本の子供らの自尊心は低いと指摘されました。主要6都市（東京、ソウル、北京、ミルウォーキー、オークランド、サンパウロ）で、11歳の子供に対して一斉に行われた調査では、日本の自信、自己評価が、いかに低いかが示されています。自分は勉強がよくできる、日本8.4%、海外26.2%。友達から人気がある9.8%、海外27.8%。自分は正直な子12.0% 海外は43.7%。親切な子12.3% 海外44.7%。勇気のある子19.0% 海外42.2%（「Eガラ・小学生ナ・第五回国際教育シンポジウム執告書」1997年より）

未来の自己イメージでは、みんなから好かれる人になる、日本10.5% 海外38.0%。良い父母になる、日本21.1% 海外67.7%。幸せな家庭をつくる、日本38.6% 海外70.1%。仕事で成功する、日本20.6% 海外51.3%と半分程度の評価でしかない。

経済的効率・合理性の追求が優先される余り、周りが基準となり、弱いのは努力が足りないからと自己責任とされてきました。戦後憲法で保障されたあまり進まない国民主権の意識、誰も責任をとらない政治の後進性、閉鎖的なムラ・イエの封建制の残骸、それに伴う家族制度の崩壊。そこから生まれた価値観から不登校、引きこもり、精神の障がい、親子間のトラブル、自殺等が起きている。

では、どう生きるのか

- 1) マイナスとされていることを尊重しよう
- 2) 人間はそんなに強くない
- 3) 努力信仰をやめよう
- 4) 助けてといえることが大切
- 5) 言い聞かせても人は変わらない



『第42回岐阜県精神保健福祉・家族大会』

日時：令和4年9月23日（祝・金）13：30～16：00

場所：南部コミュニティセンター 2階 大集会室
（岐阜市加納城南通1丁目20番地）

テーマ：「当事者・家族のリカバリー」

- ・支援者・家族の発表 川島 愉美さん（中濃わかば会）
宮田 和江さん（岐阜市あけぼの会）
直野 武志さん（くらしケア代表取締役）

コーディネータ：熊谷久子さん（精神保健福祉士）

- ・「ぎふかれん」の活動報告：ぎふかれん事務局長 筒井有紀子
- ・功労者表彰 安藤勝子さま(前いこい会会長)・井上俊子さま(たんぼぼの会会長)
柘植昭和さま(東濃やまなみ会会長)・山田偉雄さま(前ぎふかれん理事長)

参加者 62 名

県大会を悪天候の中、開催しました。岐阜県健康福祉部保健医療課の井上課長と岐阜県精神保健福祉センターの奥村所長を来賓にお招きし、ご挨拶を頂戴しました。お2人にはご多忙の中、最後までご臨席いただき、私達の現状・希望を聞いて頂きました。

次に、「中濃わかば会」会員の川島さん、「岐阜市あけぼの会」会員の宮田さん、「株式会社くらしケア代表取締役」直野さんに発表していただきました。

○川島さん：息子さんが、統合失調症になり、薬が合わなかったのか、なかなか改善しなかったこと。セカンドオピニオン・サードオピニオンで、いろんな精神科医に会い、相談されたこと。今は、良いお薬に出会い回復されてきている経過をお話いただきました。

○宮田さん：息子さんには、発達障害があり、自分の思うようにいかないとき直ぐ怒る。アルバイトも長続きしない。母親に不満をぶつけ、暴力をふるうことがある。「障がい者就業・生活支援センター」の支援を受けているが、生活援助は不十分で困っていらっしやる現状をお話してくださいました。

○直野さん：ご自身がこれまでの人生の節々で、感銘を受けられた「言葉」の数々をパワーポイントでご紹介くださいました。ご病気になられ障害者の立場になられた時の葛藤。「くらしケア」を立ち上げるに至った経緯を丁寧にお話いただきました。

その後、「ぎふかれん」の令和3年度活動報告・令和4年度事業計画の説明をいたしました。

最後に、功労者表彰を行いました。「ぎふかれん」として、長年家族会活動にご尽力いただきました4名（安藤勝子様・井上俊子様・柘植昭和様・山田偉雄様）の皆さまを表彰させていただきました。先達に恥じぬよう、私たちも頑張りたいと思います。



家族による家族のための家族学習会

主催：たんぽぽの会（各務原市の精神障がい者地域家族会）

場所：那加福祉センター 2階 研修室（各務原市那加雲雀町 15 番地）

日時：事前準備会（ぎふかれん相談室） 9月26・27日（10：30～12：00）

第1回 令和4年10月2日（日） 第2回 10月9日（日）

第3回 10月23日（日） 第4回 10月30日（日）

第5回 11月6日（日） 13：00～17：00

担当者：井上 俊子さん・林 優子さん・矢井 文子さん・服部 信子さん・筒井 有紀子さん

参加者：5名（うち非家族会員4名）

アドバイザー：小俣 溶子さん（静岡県のNPO法人 精神保健福祉みどり会 理事長）

地域精神保健福祉機構・コンボ発行「統合失調症を知る心理教育テキスト（家族版）

じょうずな対処 今日から明日へ～学び合い支え合いリカバリー～」をテキストにして、

担当者・参加者で統合失調症を学ぶ学習会です。統合失調症だけでなく他の精神疾患に関するテキストもございます。参加対象者は、家族のみに限られます。親・きょうだい・子供・配偶者で精神疾患をかかえるご家族がいらっしゃる事が参加条件となります。

第1章 統合失調症を知りましょう・はじめの一步

第2章 統合失調症の経過・状態とその対処

第3章 統合失調症の治療と支援

第4章 住みたい町で暮らし続けるために

第5章 家族自身が元気を保つために

テキストを1ページずつ輪読し、お互いの話をしながら病気への理解を深めます。

●参加者の感想

- ・話すことで心が軽くなった。
- ・病気への理解・病気への偏見に気づき、もっと早く家族学習会に参加すれば良い対応が出来たのではないかと思う。
- ・色々な方の意見が聞けて勉強になった。

●担当者の感想

歩んできた道を振り返り、発病当時の不安な日々や藁をも掴む思いで相談機関を巡ったことを思い出しました。新しい仲間と悩みを共感し分かち合い学習することが出来たことを嬉しく思います。



主催：岐阜市あけぼの会（岐阜市の精神障がい者地域家族会）

場所：南部コミュニティセンター 2階 防災室（岐阜市加納城南通 1 丁目 20 番地）

日時：第1回 令和4年12月11日（日） 第2回 12月18日（日）

第3回 令和5年1月9日（日） 第4回 1月22日（日）

第5回 1月29日（日） 13：00～17：00

担当者：服部 信子さん・筒井 有紀子さん・伊藤 好美さん・宮田 和江さん・坂井 真由美さん

参加者：広報ぎふ（令和4年11月1日号）に掲載し、参加者を募集しました。

「ぎふかれん」は、来年度も家族学習会を各地域で開催したいと考えております。

NPO 法人 東濃やまなみ会の紹介

NPO 法人東濃やまなみ会は、年 4 回の家族集会、年 6 回の役員会を行っております。
東濃やまなみ会は、「地域活動支援センターふきのとう」という事業所を運営管理しています。

住所：〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川 2074-46

TEL/FAX：0573-66-8088

利用時間：月～金曜日 9：00～15：30

毎月第 1 週日曜日の中津川市の中山道まつり（六斎市）にも参加をして、ふきのとうの製品を販売しております。

*アクリルたわし（そうり型、いちご型）各 1 個 150 円

*子供用帽子（アクリル）500 円、コースター（サマーヤーン）2 枚入り 200 円。

*ネックウォーマー 500 円、足首ウォーマー 300 円、レッグウォーマー 500～800 円。

これから冬に向けての防寒対策に。夏場は冷房対策でサマーヤーンにて製作しています。

*陶器類 [茶碗、皿（大皿、小皿）、コーヒーカップ他]、造花（ケース付き）1 個 200 円 etc.

*「ふきのとうの猫はんてん」男性用 1 枚 2,500 円、女性用 1 枚 2,000 円、子供用 1,500 円。この地域では、ここでしか作っていない人気商品です。

生地は地域の方や知人から、「もう着なくなったから使ってください」と言って寄付をくださった着物や反物を加工して作っています。

頂いた着物はふきのとうに通うメンバーが、縫ってある糸を一本一本丁寧にほどいて、何枚かの身頃に分けて一枚の布に戻します。それを指導員が型を取り、ミシンで表地と裏地を縫い合わせて、男性用、女性用、子供用に加工しています。試行錯誤しながらちょっと大きめだったり、普通だったり…その時の気分でサイズを変えています。

所長のこだわりは中に入れる「わた」。化学繊維ではなく暖かい木綿を使っています。こんな工程を経て仕上がったふきのとうの猫はんてん。まずはメンバー全員に好きな色、柄のはんてんをプレゼントしました。今は六斎市などのイベントに参加しながら販売をしています。市価の半値くらいなので、とても好評です。

色々と創意工夫をしながら作っております。

この売り上げを、毎月メンバーの工賃に加算して支払っています。



😊お 礼😊

大垣病院さま・(株)くらしケアさま・須田病院さま・舟伏さま・養南病院さま
村田ゆかさま 賛助会員になっていただきましてありがとうございます。

筒井事務局長、大学のゲスト講師になる！

令和4年11月5日(土)名古屋市栄。日本福祉大学の青木聖久教授(みんなねっと理事)からの依頼で、『精神障害者と福祉実践Ⅰ』という授業の一環で、「家族の立場から・家族会とは」というテーマでお話をさせていただきました。受講生は、80余名。将来、精神保健福祉士やケースワーカーを目指す方。現在事業所で支援者の職に就いておられる方等。立場は、様々でした。

一緒に登壇させていただいたのは、21歳で統合失調症を発症し、現在、就労継続支援B型事業所「ゆったり工房」でピアスタッフをされている岩田さん(52歳)。とても爽やかで穏やかな好青年といった第一印象の男性でした。岩田さんの幼少期から現在に至るまでのお話を駆け足でお聞きしました。そこには、当事者ならではのご苦労とご家族とお仲間の姿が垣間見えました。とても真面目で素敵な方でした。7年前にご結婚もされています。

講演後、早速連絡先の交換をし、「ぎふかれん」か「岐阜市あけぼの会」で講演してください！とお願いしてきました。皆さん、お楽しみに。

さて、私の番です。私の幼少期「きょうだい」の立場の私は、どのように兄のことを感じていたのか。どのような子ども時代を送ってきたのか。どのような人生を歩んできたのか。兄のことに取り組んできた経緯。お医者さん探し。医療に繋げるのに苦労した話。自立支援医療費(精神通院医療)・精神障害者保健福祉手帳の申請。障害年金取得。手続きを全て自分一人でやったこと。その過程で、お役所の心ない対応に憤りを感じたこと。行政が、縦割りで横のつながりがないことへの不満。孤立していた私に、東京に住む親友が「岐阜市あけぼの会」という家族会の存在を教えてくださいました。早速参加し、そこで同じような思いをしていらっしゃる方達の存在を知りました。私だけではない！と家族ともども強く感じ、岐阜市あけぼの会に入会しました。自分が苦労してきた経験がこれからの方達の役に立つことに思い至り、岐阜市あけぼの会の役員を経て、現在NPO法人岐阜県精神保健福祉会連合会(ぎふかれん)の事務局長になりました。「ぎふかれん誌」も「あけぼの会便り」も資料として、受講生の方達に配布しました。私の家庭が「8050問題」「9060問題」真っ只中であること。これが社会問題としてクローズアップされていること。家族として悪戦苦闘する毎日を送っていること。等々お話させていただきました。

精神障がい者・その家族と聞くと、暗いイメージと受講生の方達は、想像してみえたようです。しかし、岩田さんと私はそのイメージを払拭しました。皆さん驚かれたようです。「人間の強さ」を感じていただけたようでした。家族会も、決して暗いだけの集まりではなく、時に笑いもあり、そこには辛さを乗り越えてきた人達が持つ「強さと明るさ」があることを知っていただけました。最後に、このような機会を与えてくださった青木教授に、心より感謝申し上げます。

岐阜県精神保健福祉研修会の案内

日時：令和5年2月23日(祝・木) 13:30~16:00

場所：岐阜市メディアコスモス みんなのホール
岐阜市司町40番地5

演題：『高次脳機能障害について』

講師：篠田 淳(しのだ じゅん) 医師

(中部脳リハビリテーション病院長・中部療護センター長)

会場参加 100名 オンライン参加 90名

月刊「みんなねっと」の購読を！

全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）は精神障がい者の家族会の全国組織です。国の障がい者福祉・医療の施策制定に委員として参画しています。

年間 3,600 円（賛助会員 会費に購読料含む）

発行者 公益財団法人 全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）

TEL 03-5941-6345 FAX 03-5941-6347

ご希望の方は連絡してください。

家族向け交流サイトみんなねっとサロン

～親、子ども、きょうだい、配偶者、パートナー等 ご家族の方限定～

■ご利用方法（無料）

<https://minnanet-salon.net/service> （みんなねっとサロンで検索）

家族による家族のための電話相談

同じ悩みを持つ家族だからこそ
共感できます！

相談日：火曜日・木曜日・金曜日（10：00～15：00）面接相談も行っております。

TEL：058-271-8169（祝祭日休み）

携帯：090-6578-9838（精神保健福祉士）

HP <https://gifu-karen.jimdo.com/>



会員（家族会員）・賛助会員及びボランティア募集

家族会員は各地区の家族会として、それぞれ募集致しております。

岐阜県精神保健福祉会連合会（ぎふかれん）では、各家族会を会員とした NPO 法人として、家族会のネットワークにより、地域精神医療・福祉の向上を目指しています。

是非、会員や賛助会員になっていただき、ご援助お願いします。

会員：1,000 円/年 賛助会員：個人 1 口 1,000 円 団体：10,000 円

郵便振替口座：00890-9-123784 口座名：岐阜精保福連

【編集後記】

「ぎふかれん誌」70号をお届けします。原稿ありがとうございました。

コロナ禍でオンライン会議が多くなりましたが、講演会で会員の皆様の顔を見ると心の結びつきを感じます。

編集担当者一同